

2014年9月発行

第7号

平成26年度

# 第1回 淀川河川公園 地域協議会 会議録

下流域版(大阪府守口市域及び大阪市域)平成26年8月8日開催分

## ■開催概要

開催日時:平成26年8月8日(金) 14:00~16:00

場 所:大阪市立総合生涯学習センター

### 議事次第

1. 開 会
2. 出席者紹介
3. 議 事  
[報告事項]  
(1)平成25年9月の水害について  
(2)前回の振り返り  
(3)事務局による調査結果について  
[審議事項]  
(1)豊里自然地区の開園方針  
(2)豊里自然地区の整備の考え方
4. 今後の予定
5. 閉 会

### 配布資料(一覧)

#### ■説明資料

- ・資料1 平成25年9月水害による淀川河川公園の被災状況
- ・資料2-1 現地視察の状況
- ・資料2-2 東大道野草・豊里自然地区の現状及び  
開園にあたっての課題
- ・資料2-3 東大道野草・豊里・豊里自然地区の整備の条件
- ・資料2-4 平成25年度第1回下流域地域協議会の主なご意見
- ・資料3-1 豊里地区に関するヒアリング結果
- ・資料3-2 豊里地区に関する文献調査結果

#### ■審議資料

- ・資料4 豊里自然地区の開園方針
- ・資料5-1 豊里自然地区の整備の考え方
- ・資料5-2 豊里自然地区の整備イメージ(叩き台)

#### ■参考資料

- ・参考資料 平成25年度第1回下流域地域協議会会議録

## 1. 報告事項(1)~(3)について

### [学識者委員]

- ・芥川の合流点のところでは、昭和50年ぐらいでも牛の放牧があった。
- ・昭和50年代の河川敷の写真では木が全然生えていない。たぎぎにみんな使っていたんじゃないか。

### [地域住民代表]

- ・私の記憶では、満潮のときは必ず全部冠水して、水が引くと水たまりができていた。

### [学識者委員]

- ・それが起こらなくなっているということが一番大きな問題だ。水位調節をどうするのかという話は、ずっと淀川全体の問題として言われている。

### [地域住民代表]

- ・守口の八雲地区で、戦後間もなく昭和30年前後ぐらいまで、地元の農家の方がヨシを刈って、かまどで燃やすことをやっていたのを記憶している。



[学識者委員]

- ・農村集落と入会地とか、里山に近いようなかわりが結構近年まであったという認識をきっちりしておくほうがいい。

[利用者代表]

- ・西中島の周辺に牧場があり、まだヨシが植わっていて放牧していたようだ。地域の歴史をまとめていると、そのような文献が出てくる。川と河川敷と生活とが関係性を持っていたと思う。

## 2. 審議事項(1)(2)について

[学識者委員]

- ・自然地区というのは、まだ正式に開園はない。子供の安全というのは「大人と一緒に入れ」という看板ぐらいしかないと思う。

[学識者委員]

- ・自然地区がこの公園の価値だといえるよう、開園していただきたい。
- ・自然地区で遊ぼうと思うと、一定の危険はつきもので、それに対して配慮をしながら使いましょうという考え方がこれから要るのではないか。
- ・安全に遊べますよと言うと、間違った自然観や、反対に危険性を招いてしまう。

[地域住民代表]

- ・2年ほど前の旭区の区政会議で、旭区の自然、環境資源として淀川の河川敷が行政的に全く認識されておらず、もったいないという議論になった。
- ・準備を含めて、大阪市の各区、国交省とのつながりをどうやっていくかが大事ではないか。

[学識者委員]

- ・管理瑕疵は、人工造物に対して管理者が確実に責任を持たなければいけないということだ。自然造物については管理責任ではなく、使用者責任、利用者責任だと思う。それをどこまで割り切っていくのかがこれからの一番大きな問題である。
- ・大阪府下の公園では、大人がちゃんと指導をしながら使っていきましょうという原則でやっている。

[学識者委員]

- ・ここを一つの出発点として、ここで遊ぶときは怖いんだぞということを国交省に看板で出してもらうのが一番いい。

[利用者代表]

- ・淀川区役所は、河川敷にはひとりではなく家族の人と行きましょうとか、安全をきっちり確保して行きましょうという広報をしている。
- ・干潟の遊びの学習会の中で川や自然の怖さも楽しみも、お父さんお母さんに伝え、親が危機管理をしながら子供にそれらをさらに教えていくという機会をつくっている。

[学識者委員]

- ・この環境の価値をまず地域の方々に知ってもらい、地域の方々も入りながら、望ましい利用の方法を、議論と同時に、ワークショップで実際にそういうイベントを何回か経験してみる。そういう中でプログラムが開発され、プログラムを支えるミニマムな整備というのを明らかにしていく。先に使い方の練習をしてから、整備がスタートして開園へつながっていくというプロセスで開園を目指すというシナリオが大変いいと思う。そのシナリオをぜひつくってもらいたい。

[地域住民代表]

- ・多人数の子供が集まれる広場をつくる必要がある。自然観察ゾーンの赤の点々(……)ぐらいまでで、まずは開園すべきだと思う。

[事務局]

- ・自然観察ゾーンは、自然環境的にあまり影響のあるところではなく、昔の道の踏み跡がついているので、公共事業的な手法でやるのもいい。

[学識者委員]

- ・木道をつくったら維持管理が大変である。
- ・子供連れの人がどう利用したらいいかを考えないといけない。

[学識者委員]

- ・その辺は、実際にイベントをして確認していかざるを得ない。講習会、ワークショップ、イベントなどの回数を重ねる中で、春先だけ観察に使われたらいいんじゃないのかという結論になるのか、せめて子供をパクダン池ぐらいは一周させたいという形になるのか。
- ・使い方を考えていく実験場をやっつけていかないと、成立しない。

[地域住民代表]

- ・ボランティアガイド、釣り人も巻き込んでいく。

[学識者委員]

- ・水に近づくということは、市レベルではほとんどあり得ない。非常に大事な出発点だと思う。

[地域住民代表]

- ・以前は大人もたくさんいて、監視して、何かあったら注意して、事故があったら助け合っていた。要はたくさんの人を自然に呼んでこなければいけない。
- ・人が増えることで結局、安心・安全な公園づくりになるし、河川の理解にもつながる。

[地域住民代表]

- ・注意の看板は絶対必要だ。小学校でレクチャーをして、遊び方、自然とのかかわり方を知ってもらう。

[学識者委員]

- ・里山型公園に近いようなことが水辺、川辺でできる第1号というところへぜひとも持っていきたい。3年から5年後の開園に向けてシナリオを事務局で立案してもらって、年内にもう一度、議論をしたい。

[事務局]

- ・もう一回は年度内にやりたい。この地区の整備計画は、何をつくりますではなくて、どうつくりますという整備計画を立てることになると思う。今年度内にもう一回開催して、そのときに案を示させてもらえればと考えている。
- ・その後は、地域の方のヒアリングをもう少しやりたい。

[学識者委員]

- ・準備に先立って希少種などの調査についてお考えがあればどうぞ。

[学識者委員]

- ・新しい植生の概略分布が欲しい。貴重種、注目種というのもできれば欲しい。

[事務局]

- ・河川水辺の国勢調査のタイミングをはかりながら、やっていきたい。年度内に植生調査の結果を出すのは厳しい。

[学識者委員]

- ・調査の項目、やり方を次回に提供していただけたらと思う。

#### [お問い合わせ先]

近畿地方整備局 淀川河川事務所 河川公園課

〒573-1191 大阪府枚方市新町2丁目2番10号

TEL:072-843-2861(代) FAX:072-843-0910 E-mail: yodogawa-kouen@kkcr.mlit.go.jp

当日配布した資料などは、下記 Web サイトにて、公表しています。詳細は、Web サイトを参照願います。



[http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/comit/park\\_kyougi/index.html](http://www.yodogawa.kkr.mlit.go.jp/activity/comit/park_kyougi/index.html)

2014年9月発行

第7号

平成26年度

第1回 淀川河川公園 地域協議会 会議録

下流域版(大阪府守口市域及び大阪市域)平成26年8月8日開催分